

栃の木からの手紙

2022年 長月 9月号



7月19日 ↑



7月26日 ↑



7月27日 ↑



7月28日蔓延 ↑

- 8日： 白露：
10日： 満月 旧 8月 13日
十五夜
23日： 秋分
26日： 新月 旧 9月 1日

【 永年連作を続けている芋の様子 】

この圃場の5種類のジャガイモは、自然農法という環境の生育の中で、最後は疫病によって終末を迎えるのが常。

当農場の慣行の芋では6月中旬頃より疫病対策等の農薬を6回前後散布して芋の健康？を守って？います。最後には芋の茎葉が黄変して枯れて行きます。

7月初旬頃から徐々に花を咲かせる5種類の芋。同時期に播種した場合、花を咲かせる順番も種類によって決まっています。そして、品種によって花の形や色も異なります。

花の時期が終わると体力が衰えて来るのか二十四節季の大暑の頃には、一面の緑の芋畑に僅かに色褪せた様な部分が見え始めてくる。この時が疫病の進行に気付く時期で7月20日ころには注意深く確認している。

今年の場合、7月26日にとうや芋で疫病を確認してから2日間でとうや芋に蔓延。芋の品種が違うところでは、芋の生育段階が異なるため、或いは芋の性質の違いの為か、疫病の侵入を防いでいる。でも、時間の問題で別の品種にも疫病は進攻してゆく。

疫病に感染した芋の茎葉は枯れて芋の生育は終わる。畑が緑に見えるのは、雑草が元気に生育しているから。不思議なものでも雑草は疫病に掛かっている様子は無い。

26日に疫病を確認してから28日にはとうや芋全体に疫病が蔓延しました



8月1日 ↑

8月には別品種の芋にも疫病が拡がり8月6日、茎葉の枯死を確認してから茎葉処理機で「シャドークイーン」・「とうや」・「ノーザンルビー」の地上部を刈りました。当然、伸びている雑草も刈り払われました。内心の目的はここにあるのです。

今年の茎葉処理作業の変更点は、従来は8月下旬に一回目の処理を行っていましたが、今回は茎葉が枯れた事を確認して早期に処理した事。



8月3日 ↑

茎葉処理で注意したい事は、風の向き。疫病菌を含む土埃が風で流されるので元気な芋のある方向と反対方向に風が吹いている、または無風が良い。

こんなことがある。緩衝地帯のひまわりを茎葉処理した時、芋の方向に土埃が流れていた。当然、疫病が促進されました。

今年は、8月6日に一回目の茎葉処理を行いました。ひまわりはまだ咲いています。



8月6日 茎葉処理前↑



8月29日 2回目茎葉処理前

1回目の茎葉処理後時間が経つと雑草が伸びて来ます。

まだ処理していない芋が2種類あります。



8月11日 ↑



8月29日 2回目茎葉処理後

8月29日、2回目の茎葉処理を行いました。

これは、収穫を前にして雑草を短く刈っておかないと機械に雑草が詰まって、収穫作業が大変になる事にあります。

8月末から収穫作業を行う予定でしたが、天候等の都合で収穫始まりは、9月5日からでした。一般の食用芋を優先して作業する為に、それが終わるまで自然農法の芋の収穫は行いません。今年の場合、9月4日に一般の芋の収穫が終わり、夕方になりましたが直に機械の清掃・水洗浄を行って翌日からの自然農法の芋の収穫に備えました。